

地域に根ざし、充実した 留萌市立総合病院をめざして

③

市立総合病院の移転改築にあたり、いろいろなご意見・ご要望をいただきました。

今回は病院特集の3回目として、いままで新聞紙上、地域と市長のコミュニケーション広場などにお寄せいただいた意見・質問などをまとめ、これからの市立総合病院をめざすものについて一緒に考えていきたいと思えます。

「なぜ建て替えるのか？」

「市立総合病院は、いま利用者から厳しい批判を受けています。大別すると、駐車場のスペースが足りない、待合室が狭い、病室がきたない、廊下が狭い、投薬待ち時間が長いといった問題と、病院職員の対応の問題とがあります。」

「現在の市立病院は、昭和43年200床のベッドをもつ病院として現在地に新築されて以来、28年間、市内のみでなく、留萌管内の中心的病院として役割を果たしてきました。」

この間、医療技術の進歩に伴って医療機器やベッド数が増加し、その都度増築を重ねてきましたが、高度成長期前に建設された病院施設

設では限界があります。」

「あたらしい病院をめざして」

「このような現状を改善するとともに高齢化など新しい社会の変化に対応するため、安全・安心そして快適な病院の建設が求められているのです。」

「なぜ東雲町を予定したのか？」

「現在の病院が抱えているこれらの問題を解決するとともに、更に将来事情が変わっても十分対応できるようにするためには少くとも3万から4万平方メートルの敷地が必要と考えています。これは現在の病院敷地のおよそ3倍に当たる面積です。」

「市内の現状を見ると、このよ

いままで懇談会などに寄せられた意見などについて、市長が回答していることを掲載し、皆様にご理解をいただき、一緒になってあたらしい病院づくりをめざしていきたいと思えます。

「東雲町は交通の便が悪く、利用するのに大変！」

「確かに東雲町の今後の問題としては交通の改善が必要ですので、道路の整備やバス路線の見直しを行って病院利用者の利便性と安全性の確保に全力で取り組みます。」

「東雲町に建つのはよいがバスが留萌高校前では大変。また南9条橋はふきさらしがひどい！」

「バスの運行経路は何よりも利用者の利便性を第一に考えていかなければなりません。病院までのバスの乗り入れなどについて今後十分検討していきます。」



「建設場所の問題もあるでしょうが医療水準の確保を第一に」

「本当に信頼される病院になるためには、建物だけではなく中身が大切です。待ち時間、看護体制、医師への信頼感、応対など市民からの信頼を得るよう、関係者挙げて努力して参ります。」



市民の皆さんのご理解をお願いいたします。」



留萌市立総合病院移転改築準備室
☎43・9511 (救護い)

企画課広報係

☎42・1801

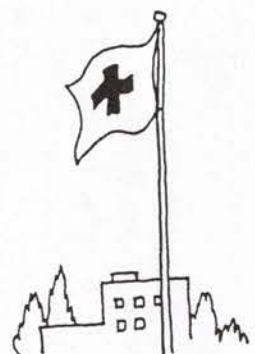
内線293番

「船場町は中心街に近く利便性があ

るのではないかと」

「船場町は将来、フェリーの就航や幹線道路の整備によって港や商店街と連動した人や物の流通拠点として必要な場所と考えています。」

たとえば商店街との連携を図りながら地元特産品の販売や人を受け入れる施設づくり、憩いの空間としての公園整備、イベント広場など考えられます。」



「東雲町になると人の流れが変わってしまいますが、病院跡地の利用は？」

「土地の利用については、病院だけの問題ではなく、いろいろな公共施設をバランスよく配置したまちづくりを進めていかなければなりませんので、跡地は集客力の高い施設などを含めた幅広い立場から検討していくことにしています。」

「交通の便がよく、商店街に近いところがよい。」

「市の中心部には駐車スペースなど広い面積を確保できる取得可能な用地は残念ながら見当りません。これらのことから東雲町を建設予定地としたものです。しかし、市立病院の移転に伴う商店街への影響について心配される意見もありますので、その影響を最小限に

「これまでどのようにして立地場所を検討してきたのか」

「市ではこれまで3年にわたって建設場所の検討を進めてきましたが、いずれも必要な面積の土地の確保ができませんでした。また、船場町の用地はフェリー就航など将来的な土地利用を考えた場合、先に述べた活用がのぞましいと考えられます。」

「街全体の構造を考え、バランスのよい公共施設の配置を考えていかなければなりません。」

現在の病院に対する市民の不満を解消しながら、患者のための交通体系に十分考慮し、建物と同時に、医療体制についても職員あがて改善の努力をして参りますので、

